

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102186		
法人名	有限会社 エ・アロウ福富		
事業所名	有限会社 エ・アロウ福富		
所在地	岐阜市福富迎田72番地		
自己評価作成日	平成28年10月27日	評価結果市町村受理日	平成29年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=trus&ligyoVoCd=2170102186-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成28年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどかな田園風景の中、風景と同じくぬくもり、ゆったりとした毎日をご提供しております。入居者様の高齢化・介護度も上がり、エレベーターと特殊浴(車椅子ごとはいれる浴槽)を導入、それに伴い事務所も増設しました。居室は東向きで開放的な掃きだし窓となっております。田園風景や、とてもきれいな日の出を眺めたり出来ます。特に食にはこだわりを持って、地元野菜・国産食材・旬を大切に考え、「量より質を」をモットーに手作りを心がけています。2ヵ月ごとの運営推進会議、3ヶ月に1度の家族会には多くの皆様に参加いただいております。高齢化に伴い外出もままなりません。機会を見つけて外食やモーニングなどへ出かけたいと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、開設満15年である。昨年度は、玄関周りの大幅改修とエレベーター・機械浴を設置し、利用者の生活環境の向上と、職員の身体的な負担軽減に繋がっている。また、開設まもなく発足した「家族会」を継続し、家族アンケートの実施で、利用者サービスの質の向上と運営に反映させている。さらに、音楽療法士が毎月訪れ、皆で音楽を楽しみながら、心を癒し、症状が緩和できるよう取り組んでいる。管理者と職員は、利用者が最期まで穏やかな生活が送れるように、医療・看護・介護の支援体制を整え、ケアの実践を行なっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は廊下や食堂など数か所に掲示しており、朝の申し送り時毎朝全員で唱和している。月1回の職員会議でも運営方針・運営理念を唱和し利用者本位の立場と尊厳の保持一人一人に寄り添った介護を心がけている。	理念は、分かりやすい言葉で表現された5項目があり、その意義は、職員会議の度に、運営方針と共に確認している。利用者の尊厳とプライバシーを守り、一つ屋根の下で暮らす家族のように、穏やかな暮らしの支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入するとともに自治会行事(清掃活動・防災訓練・夏祭りなど)に参加している。夏祭りについては会場を提供、入居者も地域の一員として参加し家族様も多数参加され楽しんでいた。	自治会の一員として、防災訓練や清掃活動などの地域行事に参加をしている。ホーム前の広場は、夏祭り会場として地域住民に提供し、近隣からは、季節の花や野菜が届くなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りは恒例の自治会行事となっており毎年会場の提供と模擬店を出店している。たこ焼きが好評で他にポンハゼも提供している。地域の方々が子供さんも含め大勢参加され、利用者様・家族様に分け隔てなく接して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・地域関係者・家族会代表の参加による運営推進会議を2ヶ月毎に開催している。事業内容・利用状況・行事などを報告し評価を受けるとともに意見交換の場を設け事業運営に反映させている。世間話もいろいろな情報源となっている。	隔月の会議では、運営の実情を報告し、諸課題について意見を交わしている。設備の改善や利用者定員の確保、認知症サロンの活用、介護人材の不足について等を話し合い、多様な意見・提案を受け、事業運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に、行政・包括センター・地域関係者に参加してもらっている。会議以外にも介護保険制度の情報や助言等指導を受けている。生活保護の入居者があり、生活福祉課とのつながりもあり、情報共有に努めている。	市の担当者や生活福祉課とは、常に連携を取り、困難事例を相談している。地域包括支援センター主催のケア会議にも出席している。防災対策や補助金申請、マイナンバー制度などで相談し、助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者本位と尊厳の保持が重要視され、グループホーム協議会の研修で尊厳の保持つまり虐待・拘束のない介護を学び、職員会議で社内研修として取り上げ全員で学習をした。玄関の施錠は原則として夜間以外はしていない。(防犯上、今後は考えていく)	身体拘束をしないことを原則に、ケアに取り組んでいる。安全上、やむを得ない場合は、家族と話し合い、同意を得て、対応を行なっている。また、言葉による行動の制限や威圧感を与えることのないよう努め、利用者目線と目線を合わせ、穏やかに語りかけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止については、身体拘束と共に職員会議で取り上げ資料の配布をした。特に言葉によるものは利用者・本人が気づいていなくても、拘束・虐待になることを改めて確認した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	NPO法人きずなの会に入会されている方がおられます。後見人制度の必要な方には、紹介もしています。きずなの会より、必要に応じ資料提供をうけたり、情報交換の協力を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者本人様ご家族の事前面談を行い、不安や疑問など伺っている。契約時は、十分な説明を行い契約書・重要事項説明書を2部作成し、ご家族・事業所が1部ずつ持ち理解・納得を得ている。加算・改定などは家族会で説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月1日に利用者会議を開いている。利用者本人様より意見を聞き、また3カ月毎の家族会においてもご家族様より意見要望など伺い参考にしながら運営に反映させている。毎月の請求書・領収書送付の際、毎月の行事カレンダーも同封している。	利用者と、定期的に話し合いの場を設け、家族とは、面会時や家族会、電話等で意見や要望を確認している。また、アンケート調査も行い、職員の言葉づかいが気になるなどの意見を受け、改善につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第1木曜日、職員会議を開いている。意見・提案など聞き、話し合いをしている。親睦会も年数回行っており、その場で色々な話聞ける機会があり運営に反映している。	代表者が出席する職員会議で、運営に関する話し合いを行っている。行事予定、支援経過の検証、感染予防、勤務調整、職員間の意思疎通について、意見や提案を出し合い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務に対する取り組みや姿勢など評価し、各自がやりがいや向上心を持って働けるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格のない職員には、資格取得をすすめている。研修については、経験や習熟度を考慮し全員が受講できるよう配慮している。職員会議の場で、研修報告をしてもらっている。社内研修でも取り上げ、勉強している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループのあかねと行事等で交流がある。グループホーム協議会の会合や研修、地域のケア会議に参加し情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けたら、まず本人様・ご家族と共に面談、話を聞きホームの見学をしていただき説明そして質問・疑問などにお答えし、本人様・ご家族が共に納得の上サービスを開始している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とも面談をしている。施設と十分な話し合いの場を設け、質問、ご要望など聞きながら説明をし、不安や疑問の無いよう努めている。どんな些細なことでも、遠慮なく話してもらえるような環境づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・ケアマネをはじめ職員を交えて本人と家族が何を望み何に重きを置いているかを話し合い、それに答えられるように努めている。本人様の思いを一番に考えアセスメントをしていきたいと考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で、見守り・声掛けの中、自分で出来る事は、どんな小さな事でも自分で行ってもらえるよう支援し、家族のような信頼関係を築き理解できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や行事などに参加頂いたり、面会時日常の記録を見てもらいながら近況報告をし、又、外出の機会を持ってもらったり、相談・要望など受けながら一緒に支えていける関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者本人様の要望に応じてなじみの場へ気軽に行き来出来るよう支援している。知人や友人の面会には気軽に再訪してもらえるよう声掛けなど行っている。	子どもや孫、知人、友人などが気楽に訪れ、他の利用者とも親しく言葉を交わしている。訪れる理容師や看護師、音楽療法士とも親しくなっている。長良天神の参拝、花見、初詣等、利用者の馴染みの場へ出かけられるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間はもちろん、レクリエーションや行事などの催しには全員に声掛けし、一人で部屋に居る事のないようにかかわりが持てるように努めている。普段でも仲良くおしゃべりしたりできるよう席なども考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	日頃より、いつでも再訪して頂けるよう信頼関係を築き、連絡が取れる体制が出来ている。転居先の施設にも、情報提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月1日、利用者会議を開催しており本人様から直接どんな暮らしがしたいかなど話を聞き、それに添えるよう努めている。日常の暮らしや話の中からも一人一人の思いの把握に努め、ご家族にも面会時などに話を聞いている。	利用者会議を設け、利用者一人ひとりに暮らし方の希望を聴いている。意思表示の困難な人は、表情や普段のつぶやきなどから、思いを把握するよう努め、個々の思いに沿った暮らし方につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らし方や、生活環境・ADLの状況など資料やご家族の話をベースに、日常の会話、コミュニケーションの中からさらなる把握に努め、職員間で情報の共有をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕の申し送り・見守り・利用者の各々のケース記録などの中から職員一人一人、ADLや状態変化などの把握に努め情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議において、数名づつのカンファレンスを行い計画作成担当者と共に本人様やご家族の意見もうかがい、本人様の思いを一番に介護計画を作成している。	職員会議で、支援経過を検証し、関係者の意見や支援方法を集約している。また、本人・家族の意向も確認している。本人のできることを活かし、支えながら、筋力や体調を維持し、静と動のバランスを考慮した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を個別記録に記入し、朝夕の申し送りで職員間での情報の共有を図っている。生活の中で変化があれば、その都度報告をに対応している。記録の書き方の研修を受講し職員会議において報告をし、記録に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	天気の良い日には、本人様に状況に応じて散歩に出かけたり、近所の花を見に出かけたり、買い物に同行したり、喫茶店に行くなどの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敬老会に招待者は出席している。コミュニティーセンターが近くにあり、文化祭・健康の行事などに出かけている。近所の理容店がボランティアで安くカットにきてくださっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医があり、月2回の往診を受け利用者様の状態を説明したり、ご家族とも連絡し合ったりしている。通院時は、管理者・ケアマネが同行し説明を受けている。他に週1回協力歯科医院の往診があり利用者様の2/3位が受診している。	かかりつけ医を継続し、協力医による定期往診も受けている。協力歯科医の訪問を受ける利用者もある。かかりつけ医への通院は、家族の都合がつかない時は、職員が同行して受診している。急変時は、主治医と看護師が緊密に連携を取り、適切に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム契約の訪問看護が週2回(各ユニット1回)訪問している。必要に応じ、主治医の訪問看護を利用している。医療については、医師の助言を活用し情報を共有しながら健康管理をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院と密に情報交換を行い、早期に退院できるように努めている。本人様やご家族との面会を多く持ち、連絡を取り合って入退院時の状況を把握している。退院が近くなると相談員さんから連絡が入りカンファレンスも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問看護と契約しており看取りができる体制が整っている。家族会でホームの出来る事を十分説明し、ご家族の意向も確認しており、主治医との信頼関係を築き、ご家族・主治医・訪問看護・職員・ホームなど情報共有して取り組んでいきたい。	重度化や終末期について、事業所の方針を明文化し、ホームで出来る範囲を家族に説明して理解を得ている。利用者の状態変化があった場合、段階的に、家族、主治医や関係者で話し合い、方針を共有しながら、終末期の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生時に備え、マニュアルや緊急連絡網をホーム内に掲示している。職員会議でも社内研修として職員全員に周知している。応急手当や初期対応の訓練は検討中である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼と夜、出火の年2回の避難訓練をしている。今年は全国で災害が相次ぎ、市に災害情報配信システムや洪水時の避難確保計画・非常災害対策など提出した。職員会議においても職員に周知した。	消防署の指導の下、火災訓練を実施し、初期消火や避難、夜間と水害も想定して行っている。市には、総合防災対策計画を提出し、職員の防災意識も高い。地域との協力体制や備蓄、防災用品を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全室個室仕様でプライバシーは確保できている。トイレや入浴の介助時、扉・カーテンを閉めるや、声掛けのしかたなど言葉使いも意識して日頃より配慮している。	個々の尊厳とプライバシーを守り、その人の利益を損なわないことを、運営方針に定めて実践をしている。入浴時や排泄時等の個別ケアの場面では、羞恥心に配慮をし、さりげない声かけと対応を行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者の言葉や表情を確認しながら、本人様の思いや希望を引き出せるようさりげなく声掛けしている。お茶や飲み物の選択をはじめ散歩や同行外出など自己決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共に過ごせる時間を大切にし、ゆっくり話が出来る時間を持ったり、一人一人のペースに合わせた暮らしが出来るよう支援している。居室で過ごす時間も大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容師さんに来ていただき、カットしてもらっている。清潔で着やすく本人様(ご家族)の好みの衣類を着用してもらっている。入浴後、髭剃り・爪切り・耳掃除など行い、モーニングケアなど出来る事は自分で行ってもらうよう見守りをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	地元食材を多用し、旬の野菜を多く取り入れ手作りしている。食事は職員も同じものを一緒に摂り、誕生会や利用者会議で好みの物を聞き、それに添っている。出来るだけ自分で食事をとってもらえるよう声掛けなど支援している。	食事は、国産食材、地元野菜にこだわり、旬な野菜を取り入れて手作りをしている。利用者は、それぞれが出来ることで準備に関わり、職員も同じものを食べながら、美味しさを共有している。口腔ケアや嚥下体操で、利用者の食べる意欲の向上と完食につながるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に応じた食事形態にし、「量より質を」を考えカロリーにも配慮しバランスのよい食事を心がけている。水分不足にならないよう、こまめに水分を摂ってもらうようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、歯磨きの声掛けをして、自分で出来る方は自分で、義歯のケアやうがいなど利用者様の状態に合わせた口腔ケアを行っている。歯科往診による口腔ケアも希望者が受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレチェック表があり、各々の排泄間隔の把握に努めトイレ誘導や声掛け介助を失敗が少なくなるよう支援している。トイレの訴えが出来、またそれを気付けるよう努力している。	個々の排泄間隔に応じて、さりげなくトイレへ促し、また、生活の中で行動の区切りごとにも声かけとトイレ誘導で、自立につなげている。夜間は、その人に合わせた排泄用品を選択し、訴えや気配にも細かな配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の人は、主治医より便秘薬の処方を受け服用している。食事でも、食物繊維を多くとってもらえるよう普段より野菜を多く取り入れている。散歩など身体を動かし便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を実施している。浴槽は檜風呂でゆったり入浴できる作りになっており、順番で入浴してもらっている。車椅子の利用者様が増え、特浴を設置し、その方々にもゆっくりつかってもらえるようになった。	入浴の回数や入る順番など、利用者の希望に柔軟に対応し、拒否の人には、促し方を工夫している。風呂好きの利用者が多く、檜の浴槽は癒しの効果もあり、利用者には好評である。昨年、重度化に対応できるよう機械浴を導入している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室対応であり、自由に自分らしく気兼ねなく過ごしてもらっている。起床・就寝・午睡など本人様のペースを尊重している。天気の良い日は布団をほし、週1回のシーツ交換を実施し気持ち良く休んでもらえるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が、薬の説明書をよく読み理解して、一人一人仕分けをして間違いのないよう2人以上で確認し服薬後は個別記録へ記入しチェックしている。日々のどんな些細な変化も報告するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活力を活かした家事のお手伝いや、趣味や経験に基づいた本人様の状態にあった出来る事を支援している。毎月音楽療法があり利用者様・職員共に楽しみにしている。年数回の落研さんも楽しみに待っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、本人様の状態に応じて車椅子の利用者様も含め散歩に出かけ、近所の方と挨拶したりお庭の花をいただいたりの交流がある。高齢化に伴い難しくはなってきたが、外出行事も年数回計画して、全員で出かけている。道の駅での外食やモーニングにも出かけている。	周辺の散歩と外気浴は、日常的に行なっている。喫茶店や飲食店、認知症サロン、道の駅などへ出かける機会も多い。年間行事では、季節の花見や紅葉狩り、初詣などへ出かけている。普段行けない所へは、家族の協力を得ている。	外出支援の取り組み実態が、一部の家族に理解されていないので、利用者が外出を楽しんでいる様子を伝える工夫をし、家族の安心感につながることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はホームで行っている。ご家族の面会時などに、出納帳にて預り金の確認をしてもらい了承をもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様やご家族の希望があれば、取次など支援している。息子さんに手紙を書かれる方があり封筒に入れ出している。個人あての手紙などは、本人様に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下・床・壁・浴槽など木材がふんだんに使われており、天気の良い日にはベランダから外が眺められ朝日や田園風景に季節感を感じ取れる。廊下には季節の花や利用者様と職員が作り上げた作品や、写真など展示している。	屋内の内装には、木材がふんだんに使用され、廊下は広く長い。トイレや洗面台は、使い勝手のよい位置にある。要所には、季節の花や観葉植物、写真集、手づくり作品などがあり、ベランダからは、自然豊かな景観が見渡せる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人で過ごしたい時は自分で居室に行かれ、自由に過ごされている。食堂で皆様と仲良くおしゃべりしたり、テレビを観たりも自分の意思で自由に行っている。声掛け見守りの中、思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室和室仕様ではき出し窓になっている。開放的で見晴らしも良く季節感を感じ取れる作りになっている。今まで本人様が使用してきた衣類・布団・家具・テレビ・インテリア等持ってきていただき、居心地良く過ごしてもらえるよう心掛けている。	居室には、使い慣れた馴染みのタンスや椅子、机などの家具類を持ち込んでいる。テレビや鏡も好みに配置し、塗り絵、見やすいカレンダー、家族の写真などを飾っている。窓越しの眺めがよく、季節の移ろいが見える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には部屋番号と表札をつけたり、目印になるようなものを付けたりして間違わないようにしている。声掛けや見守りをし、安全で安心な生活が送れるよう支援している。		